

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

2019年 12月 18日

報告者：友松知宏

1、計画の概要

ブロック名	九州
計画区間	スタート地点：佐世保線／佐世保駅 ゴール地点：長崎県長崎市千々町／千々簡易郵便局
実施期間	令和1年11月09日(土)夜行バス＝11月10日(日)～11月13日(木)＝11月14日(金)
概算歩行距離	144.3Km
1人当費用概算	75,507円

2、メンバー表

	役割・分担	氏名	ワゲル期	備考(ワゲルとの関係等)
1	リーダー・記録	友松知宏(79才)	8期	090-7774-8559 鳥取県
2	会計	友松和子(80才)		友松の妻 鳥取県

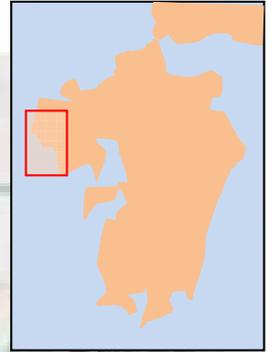
3、歩行概要

	月日	出発地～	到着地	歩距離	歩行者	備考(宿泊)
1	11月 10日	(前夜)22:45 米子発＝バス＝ 7:06 博多駅 07:29＝JR 特急みどり＝09:27 佐世保～ 早岐駅(オリックスレンタカー)～針尾ふるさと館～ 西海郵便局～西海北小学校＝板浦港／備前屋		33.1	友松・和子	レンタカー借出 備前屋
2	11日	備前屋＝西海北小学校～大島入口～柳バス停～備前屋 ～塚堂バス停～レストラン海望～神浦フェリー乗り場 ／ホテル外海イン～遠藤周作文学館		37.0	友松・和子	ホテル外海イン
3	12日	外海イン＝大野教会・出津教会(見学)＝遠藤周作文学館(見学)～三重田公民館～沖平東バス停～式見漁港 ～福田霊園＝五島町／東横イン		22.7	友松・和子	東横イン
4	13日	東横イン＝福田霊園～東横イン～戸町／ジョイフル＝ 野母崎(軍艦島資料館)～脇岬海岸～長迫バス停～ 為石海岸～千々郵便局＝長崎駅(レンタカー返却) 和子：19:19 長崎駅発＝特急カモメ＝博多駅 22:25 発		31.3	友松／和子	友松 東横イン 和子、米子へ
5	14日	東横イン＝バス＝軍艦島資料館(見学)～夫婦岩～ 蚊焼／そば処大村屋～栄上交差点～外町＝バス＝ 五島町／東横イン～長崎駅 18:19 発＝特急カモメ＝ 博多駅 22:25 発＝バス＝15日 05:50 米子着		19.7		友松、米子へ

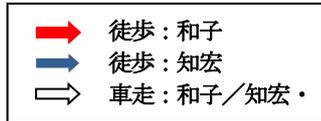
144.3 Km

* 初日、和子は早岐駅で下車し、針尾ふるさと館へ歩行。友松は佐世保まで行き、そこから折り返し早岐まで歩き、早岐駅前レンタカーを借用。和子を追って針尾ふるさと館で合流。
以後の行程はすべて運転と歩行を二人で交互に繰り返す。

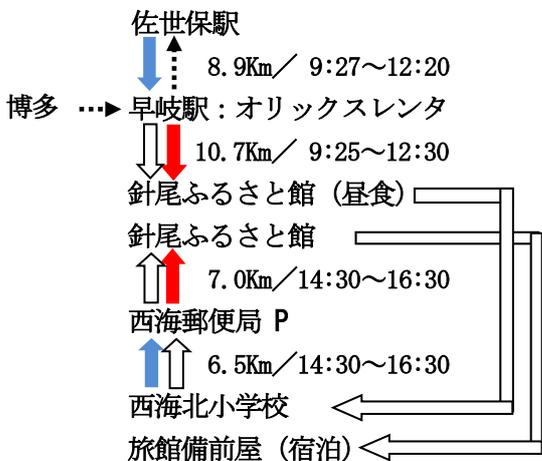
4、地図



5、詳細説明



11月10日(日) 晴れ/33.1Km



JR 佐世保駅



駅構内の朝市

和子:JR 早岐(はいき)駅で下車、針尾に向けて出発。
 知宏:佐世保駅で下車。駅構内の朝市(写真)であご焼き(トビウオ)1袋を購入、出発。早岐駅前でレンタカーを調達。針尾ふるさと館へ向かう。

ふるさと館で昼食後、西海北小学校へ車で行き、和子は折返し、西海郵便局へ車を置き、針尾へ。知宏は小学校から歩き、郵便局で車を回収、ふるさと館へ和子を迎えに行く。

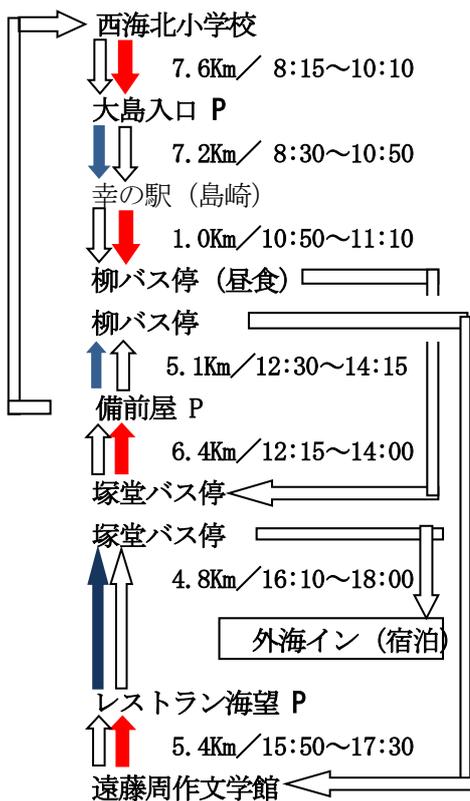
ふるさと館手前の針尾瀬戸の西海橋(有形文化財)で、渦潮を見る。

備前屋へ宿泊。



針尾瀬戸にかかる西海大橋下(左)の渦潮と新西海橋(右)

11月11日(月) 曇り⇒晴れ/37.5Km



備前屋(写真)は築100年の老舗。室内の造作に往時の賑わいが偲ばれた。おかみにメッセージを書いてもらった。部屋から見える港の水面に白鳥2羽が漂う。



備前屋(板浦)前で



板浦漁港に白鳥の番い

備前屋から昨日の終点、西海北小学校へ行き、和子が大島入口へ向け歩行開始。知宏は車を大島入口に置き、柳バス停へ歩行開始。

七釜港から山に入ったあたりに「説教場」のバス停。20mほど先に霊気を感じる空き地。中に入るとそれらしい石像が並び、一番奥まった場所に観音像が安置されている。胸にロザリオをつけ、幼子を抱き、足下にも幼児がまつわりついている。観音像に身をまかせた聖母マリア像である。ここが隠れ切支丹の祈りの場だったのだろうか？



ロザリオを付けた観音像 (右写真)、隠れキリシタンの集会場だったと思われる場所

さらに進むと民家風の建物に木の十字架を上げた教会や、切支丹墓地への標識などが続き、切支丹の郷の色合いを濃く残している。

長崎には「首」の文字が入った地名が多い。他県で見かけない地名である。土地の人に訊きそびれたが、切支丹弾圧の歴史を連想する。



「首の田」のバス停。斬首された隠れキリシタンが埋葬された地か？

何か落ちていると見てみると、大ミミズ。優に 30Cm はある。さすが西郷どんを生んだ九州、ミミズも大きい。昼寝していたらしく、カメラを構えると逃げ出す。意外に早い。

何ヶ所か、写真で足を止め、時間を費やしてしまい、車で追い越した和子はこちらが遅れているのを察し、合流点の柳バス停 1 キロ手前の幸の駅 / 島崎 (写真) に車を置き、柳バス停まで歩き、知宏は幸の駅から車で柳バス停まで車で行き、和子と合流。幸の駅で求めた弁当で昼食。



懸命に逃げる大ミミズ



幸の駅

昼食後、塚堂まで車で走り、和子を降ろしてUターン。昨夜世話になった備前屋に車を預け、柳へ向かう。

和子は塚堂から歩き、備前屋で車を回収。柳バス停へ向かう。

越後屋から 30m ほどの上り、800m の板浦トンネルを過ぎ、軽いアップダウンを繰り返すと、海の向こうに大島大橋が見えてくる。坂を下って柳バス停。和子と合流。



海の向こうに大島大橋が見える。坂を下ったところが柳バス停

柳から、今日の目的地遠藤周作文学館に向かう。時間に余裕があったら、文学館を見学する予定であったが、日が短く、暗くなるのも具合が悪いので、明日に回す。

知宏は車でレストラン海望へ戻り、車を置き塚堂バス停まで歩く。和子は海望まで歩き、車を回収、塚堂バス停まで車で行き、知宏を待つ。

海望から坂道を下り、神浦橋を渡ると目の前に今日の宿、そとめイン。外国航路の豪華客船のようである。インを横目に通過。まもなく日没。国道 202 はサンセットロードと呼ばれる夕日の名所である。

夕日の写真を撮りながら塚堂バス停で和子に合流。

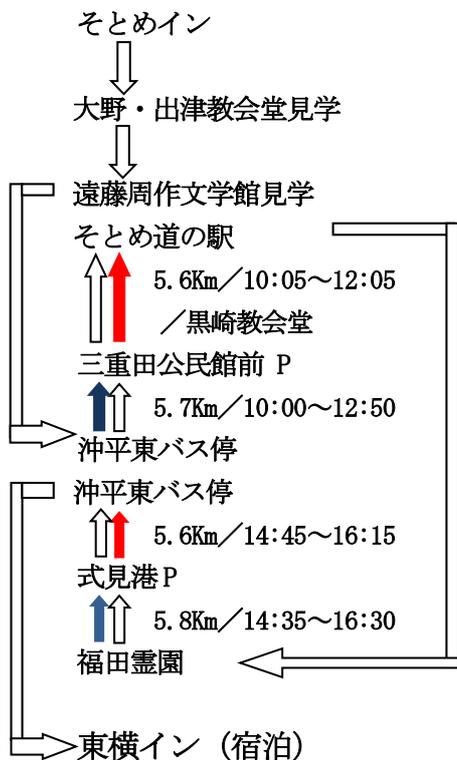
外海インにチェックイン。食事を頼んでなかったが、レストランがあるのを昼間見ており、弁当を買わずに行ったがレストランはお休み。近くに店はなく、思案していると、マスターがチャーハンか煮魚ならできるといのでチャーハンと煮魚を2人で一皿頼む。煮魚ははまちのアラで、皿に山盛り。一皿で二人に十分、隣の席では常連らしき男2人が持ち込みの缶ビールを並べてやっており、マスターが各テーブルにミカンを配ったりして、フレンドリーな宿であった。



そとめイン

サンセットロードの夕日

11月12日(火)曇り⇒晴れ/22.7Km



そとめインを早立ちし、早朝の大野集落と出津(しつ)集落を散策。この一帯はかくれキリシタンの郷と知られたところで遠藤周作の小説「沈黙」の舞台になった場所である。

かつて外海一帯には5,000人近い信者がいたが、江戸幕府の禁教政策により、大村藩は厳しく取り締まった。しかし、外海は大村城下から遠く、また出津(しつ)や黒崎などには、比較的寛容な佐賀藩の飛び地が混ざっており、多くの潜在キリシタンが存在したと伝えられる。

大野教会堂

神浦・大野地区の信徒のためにマルク・マリー・ド・ロ神父が自費を投じ、信徒の奉仕によって建てられた教会堂。

出津教会堂

カトリック出津教会の巡回教会として、1882年、ド・ロ神父が私財を投じて建設した。出津教会には僧院もあり、出勤する聖職者に会った。



大野教会堂



出津教会堂

遠藤周作文学館

遠藤文学の原点とされる小説『沈黙』の舞台となった外海(そとめ)。東シナ海を臨み、素晴らしいロケーションに建つ瀟洒な文学館。館内には遠藤周作の生前の愛用品、遺品、生原稿、膨大な蔵書などが展示されている。

新潮文庫の「沈黙」を持参し、記念スタンプを押してもらった。「沈黙」を持参し、記念スタンプを押してもらう。出津集落の一角に「沈黙の碑」が建てられている。



遠藤周作文学館



沈黙の碑

人間が
 こんなにも
 哀しいのに
 主よ
 海があまりにも
 碧いのです
 周作

沖平東バス停から間道（矢印）に入り、魚市場に下る。市場の前は魚を食べさせる店が並んでおり、和子と合流して、ここで昼食と決めていた。

国道は大きく迂回しており、2キロほどカットできるはずであったが、魚市場を過ぎたあたりで、地図を読み違えて国道へ戻る入口を素通り。1キロを無駄に往復。すぐ上に見える本道に戻ろうとして滑りやすいカヤの急斜面30メートルを直登。悪戦苦闘で30分かかり、結局、1時間ほどロスった。



沖平東バス停／間道入口（矢印）



長崎魚市場方面

和子はその間に黒崎天主堂を見学し、遠藤周作文学館に隣接するそとめ道の駅で知宏を待つ。



黒崎教会堂

そとめ道の駅は黒崎小城鼻（城山）頂上（標高200m）の奥にある。駅からの眺望は抜群である。黒崎側から見る小城鼻は、鼻というよりヘッド（頭）である。ハワイには行ったことはないが、写真で見るハワイのダイヤモンドヘッドを彷彿させる。

長崎漁港の鮮魚料理はあきらめて、道の駅で弁当を買って昼食。駅から福井霊園まで車で移動。

霊園から式見港を中継点に沖平東バス停まで歩き、そこから再び霊園に戻り、市内の外町まで歩く予定であったが、市内への中継点を探す間に日没になり、歩道のない山道は危険なので、霊園で今日の歩行を終わることにする。

本日の宿、東横インへ直行。夜、稲佐山にあがり、夜景を見て夕食は新町の中華街に繰り出すつもりであったが、遅くなったので、ホテルの近場の中華の店で済ます。今回の歩行で、唯一の夕食。贅沢するつもりであったが、長崎チャンポンと皿うどんと生ビール。何となく侘しい晩餐であったが、皿うどんをメニューに見つからず探していたら、隣の席にいた若い男性が帰り際、立



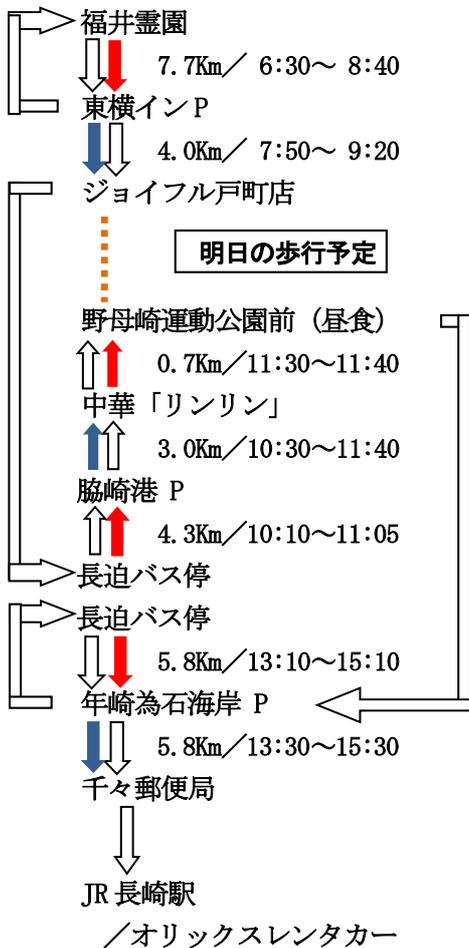
小城鼻（城山）



皿うどんと長崎チャンポン

ち止まり、メニューのページをめくって教えてくれた。観光客に親切な街である。何よりも人の心がご馳走である。料理はボリュームあって、満足。

11月13日(水)曇り⇒晴れ/31.3Km



昨日歩き残した福田霊園に和子を送り届け、東横インに車を預け、昨日の目的地小菅町公民館へ向けて歩行開始。

長崎電鉄(路面電車)に沿って202を南下。通りには江戸時代の日本唯一の国際貿易港であった長崎の面影が色濃く残っている。建物だけでなく、会社名も中国人が好む「龍」の字などを使った大きな看板が目につく。以前北京を訪ねた時のことを思い出す。江戸時代に活躍した中華系商社が今も活躍していることが偲ばれる。出島商館跡(復元)の裏門前を通過。

レトロな街の風景を楽しみながら歩く。

8:55合流地点の小菅公民館前に到着したが、和子がまだ時間がかかるようなので足を延ばし外町バス停を過ぎたジョイフル外町店で合流。



路面電車が走る国道202



旧香港上海銀行長崎支店記念館



レンガ造りの製網会社

野母崎運動公園経由で脇岬給水施設まへの長迫バス停まで行き、そこから和子は今来た道を脇坂港へ向かって歩き、知宏は脇坂海岸の空き地に車を置いて野母崎運動公園に向けて歩く。

この辺りは、以前はシーサイドパークだったらしく、防砂林の内側の砂浜沿いに遊歩道があり、樺島を眺めながら歩く。湯歩道が尽きたところで、県道に戻ったが、野母崎運動公園へのT字交差点を過ぎての気がつかず、そのまま歩き続けて、1キロほど過たところで間違いに気がつき、県道に戻る。

和子はすでに野母崎近くまで行っていたが、Uターンして、T字交差点から300mほどの中華レストランリンリンの駐車場に車を置いて運動公園に向かう。知宏は車を拾い、運動公園で和子に合流。弁当を買い、昼食。

昼食後、車で年崎為石海岸に向かう。車の置き場所を確認し、長迫バス停に戻り、和子が為石に向かって歩き、知宏は車で為石に戻り、車を置き千々郵便局に向かって歩く。

長田尾でわき道を降りてきた男性2人(長崎さん)と立ち話。同じ年ごろで話が弾み、10分ほど時間を費やす。

台地のはずれまで来たところで、和子の車が追い越して行き、つづれ織の坂道を下り、橋を渡ると千々郵便局。昨年、移転したばかりでまだ新しい。



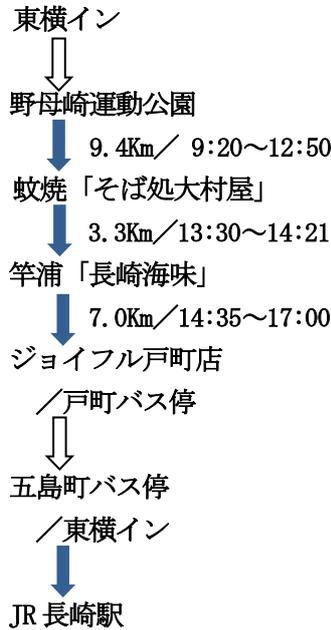
長迫バス停/水道給水施設



千々簡易郵便局

次の駐車場所確認のため車を走らせるが、細い山道で、日も暮れかけており、和子が乗る列車のことも心配で、今回は千々郵便局で終わりにする。そのまま茂木経由で長崎駅に向かい、駅構内のオリックスレンタカーに車を返し、知宏は東横インへ、和子は博多から夜行バスで米子へ帰る。

11月13日(水) 晴れ(強風) / 19.7Km



五島町からバスで野茂崎運動公園に行く。バス停前が軍艦島資料館。せっかくの機会、ざっと一回り見ようと入館。軍艦島正式名称端島(写真)は炭鉱の島として知られており、早朝から団体客で立て混んでいる。音楽家で写真家の福山雅治が撮った、島の写真を展示。30分ほどで切り上げ、一路、長崎へ。



軍艦島遠景



蚊焼バス停前に九州では珍しい手打ち蕎麦の店。ざるそば1枚を注文。本格的な蕎麦。ツユがしっかりしている。栄上交差点を過ぎ、竿浦で加工魚の店「長崎海味」を覗く。小さな店で魚のせんべいを焼いている。あご(とびうお)のせんべいを一袋買う。オーナーの若奥さまと思しき女性と立ち話。メッセージを書いてもらった。

今回は歩くことに徹して、長崎市内観光は次回にすることにしていたが、せめて大浦天主堂だけでも見ておこうと急ぐが、道草して予定通りにはいかない。長崎湾の入口にかかる、ながさき女神大橋で日没。

17:09、昨日の合流点ジョイフル到着。戸町でバスに乗り、東横インに預けた荷物を 受取り、長崎駅到着。今回の全日程を終わる。



女神大橋で日没

博多駅前広場でクリスマス・バザールをしている。イルミネーションと雑貨やホットワインや食べ物を売る店が並び、ステージではライブが繰り広げられている。まったく予期せぬ、旅のおまけ。米子行バスまでの2時間ホットワインとポテトチップスを買って、ステージの前に陣取り、トゥーランドット「誰も寝てはならぬ」などのクラシックやポップを聴く。飛び入りがステージにあがり、ボーカルに合わせて奇妙な踊りを披露するなど、国際色豊かで楽しい。妻に花柄のカップを買って、帰りの夜行バスに乗る。



博多駅前広場でクリスマスバザールのアトラクション

6、費用概算（一人あたり）

交通費

米子＝バス＝博多	32,000 円
博多＝ JR ＝佐世保	4,700 円
長崎＝ JR ＝博多	6,300 円
<u>小計</u>	<u>43,000 円</u>
タクシー（自宅＝米子駅）	2,700 円
バス（長崎＝野母崎運動公園、＝外町）	1,800 円
レンタカー	37,000 円
ガソリン	4,120 円
<u>小計</u>	<u>45,620 円</u>
宿泊費	45,485 円
飲食費	15,209 円
雑費（入場料等）	1,700 円
<u>小計</u>	<u>62,394 円</u>
<u>合計</u>	<u>151,014 円</u>
<u>1人あたり</u>	<u>75,507 円</u>

7、メッセージ

別紙

以上